

〔優秀賞〕

◇ 思いやる心 ◇

赤見小学校 6年 真下 光生

だんじょきょうどうさんかく。この言葉を最初聞いて、どんな意味か全く分からなかった。ぼくは、辞書で調べてみて、男女共同参画と書くことを初めて知ったほどでした。しかし、男性と女性の誰もが平等に学んだり、働いたりするチャンスが与えられ、対等な立場で責任も分かち合える社会のことをいうと知り、とても大切な考え方だし、ぼくもそんな社会になって欲しいなと思いました。

そこで、自分の周りでは、男女共同参画に対してどんなことが関係しているだろうかと考えてみました。

ぼくは、サッカーをやっています。ある日、女子サッカーチームと試合をしました。ぼくは、女子チームだから勝てるだろう、と決めつけていました。しかし、試合をしてみると、簡単にドリブルで抜かれてしまいました。

ぼくは、女子だから、とあまく見ていたし、それが男女差別だったのだなと気付きました。男女ではなく、一人の選手として認め、プレーすることが大切なのだと思いました。

また、ぼくのサッカーチームには、女の子も所属していて、一緒にプレーしています。

ぼくが5年生のとき、サッカー未経験の女の子が入部してきました。そのときぼくは、大丈夫かなと心配しました。

しかし、以前の反省から、女の子だからといって上手ではないとか、おいてないとか考えるのは差別であると反省しました。男だから、女だからと、決めつけてしまうことはやはりいけないことだと改めて思いました。

実際に、その女の子は、苦手な練習のときもあきらめずに努力していて、どんどん上達していきました。また、全体的なプレーの技術も向上していきました。その話をお父さんにしてみると

「男女ではなく、その子の良さを見つけられてよかったね。その子にはその子の良さがあるからね。」

と言ってくれました。ぼくもこれから、ぼくの良さを伸ばしていけるようがんばっていきたくと思いました。

今年の夏、東京オリンピックが開きされました。今回卓球で男女混合ダブルスという競技が新しく追加されました。この競技で、日本人の男女の選手が力を合わせてプレーをして、金メダルを取りました。テレビのインタビューでお互いの苦手なところや得意なところ、性格などを理解し合い、支え合って練習していたと話しているのを見ました。年齢差も大分あるにも関わらず、信頼し合えるなんて素晴らしいと思います。

ぼくは、男と女ではなく、一人一人が良さを認め、一緒に仲良く生活することが大切なのだ、と改めて知ることができました。

そして、男女が差別することなく、協力し合って、仲良く生活できるような社会にしていきたいと、強く思っています。